

2014年4月19日、20日。

東京体育館で国際親善空手道選手権大会が開催されました。  
横浜北支部からは選手15名が出場し、6名が入賞しました。

11歳男子+40kg級 優勝 多久田和馬



昨年、負け無しで全国大会、国際大会を制覇した絶対王者が今大会でも力を見せつけた。

昨年は軽量級だったが、今年は重量級にエントリー。

トーナメントの中で最も小柄だったが、試合では体格差を跳ね返すほどの攻撃力で相手を圧倒した。

今年は昨年から続く連勝記録をどこまで更新することになるのだろうか。

13～14歳男子+55kg級 優勝 小嶋瑠久



昨年の国際大会を怪我で見送った小嶋が貫録の優勝。

強力な打撃で終始相手を圧倒。

昨年の無念さを晴らし、中学最後の国際大会で最高の結果を出す事ができた

いよいよ来年は海外から多数が出場する高校生の部。

きっと日本のエースとして活躍してくれるに違いない。

小学女子高学年+40kg級 優勝 知念琉花



昨年の国際大会、全国大会を制している知念が中学生の階級に初挑戦。  
1年生から3年生までの混合となっているカテゴリーで1年生の知念が果敢に攻めて勝利を重ねていく。  
惜しくも準決勝で敗れてしまったが、1年生での入賞は評価できるだろう。  
だが、優勝のみを狙っていた知念に笑顔はない。  
きっと来年は決勝に勝利して最高の笑顔を見せてくれるだろう。

11歳男子 \* 40kg級 準優勝 福島紫恩



国際大会初出場の福島がいきなりの準優勝。  
素早いフットワークと回転の速いコンビネーションは出場者の中でも抜群のスピード。  
そのスピードで対戦相手を翻弄して一気に決勝まで駆け上がった。  
決勝では惜しくも敗退したが今大会の経験を糧に秘められた潜在能力が開花するに違いない。

15歳男子 + 65kg級 第3位 菅優作



何度も挑戦し続けてきた国際大会で初めての入賞。  
初戦、2回戦とも190cm100kgのロシア人と対戦。  
圧倒的な体格差を真っ向勝負でねじ伏せた。  
今大会で殻を破ったことで、今後ますます怪物へと変貌していくことだろう。

世界女子大会 第3位 遠藤ひとみ



トーナメント唯一の日本人選手である遠藤が3位に入賞。  
日本人選手として最低限の責任は果たした。  
だが、遠藤自身は試合内容に満足していない。  
今回の悔しさをバネに次の大会は世界を驚愕させるほど強くなるに違いない。

✕ 閉じる